

# 灯

四年 画数 6  
筆順 一、二、三、四、五、六  
オン トウ  
フン ひ

成り立ち



もとは「燈」という字でした。「登」と「丁」とは同じ音なので、「燈」の代わりに「灯」と書くようになったものです。

燈は、「高い所に登る」という意味の「登(3年387)」と「火」とを組み合わせて作った字で、「高い所に火を登せる」という意味の字です。「高い所に上げる火」、「明かり」を表した字です。例灯火、灯明、電灯。

「灯」を「火」と同じように「ひ」と読みますが、この「ひ」は、「ともし火(明かり)」という意味で使われる「ひ」です。

使い方

▽むかしは、夜道は暗くて危険でしたが、今は街灯や門灯があるので助かります。常夜灯をともしている家もあります。日本ほど、夜、安心して外を歩ける国はめつたにありません。

熟語例

- ▽灯火(ともし火。明かり。「灯火親しむべし」とむかしの人は、秋の夜長に読書にはげみました」などというふうにな、つかいます。)
- ▽灯明(神仏にお供えする明かり。「朝夕、灯明を欠かさない」などというふうにな、つかいます。)
- ▽電灯(電気による明かり。「電灯の下で、勉強する」というふうにな、つかいます。)
- ▽街灯(街路の両がわに取りつけられた電灯)
- ▽門灯(門のところに取りつけられた電灯)
- ▽常夜灯(夜の間に、ずっとつけておく電灯)

# 堂

四年 画数 11  
筆順 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一  
オン ドウ  
フン

成り立ち



「高尚(ていどが)が高く(り)つばなこと」の「尚」は、「りつばな家」の形を表した字です。堂は、この「尚」と「土」とを組み合わせて作った字で、「土を高くもり上げ、その上に立てたりつばな家」を表した字です。例殿堂、公会堂、お寺の本堂、講堂。

「りつばな家」のことを「堂々たる邸宅」といったことから、「りつばな様子」を「堂々」というようになりました。例堂々たる行進、堂々とした態度。また、よその人の母をうやまつて「母堂」といういい方もあります。

使い方

▽わたしたちの学校では、合唱がさかんです。このあいだも地区の公会堂をかりて、合唱の発表会をおこないました。おとうさん、おかあさんや、近所の人が聞きに来てくれたので、公会堂が一杯になりました。わたしたちも、せいっぱい歌いました。

▽ぼくは剣道を習いはじめました。習いはじめたきつかけは、剣道の試合を見に行ったことでした。剣士たちが、みんな正々堂々と勝負しているのに、心を打たれたのです。ぼくも、あんなふうになりたいと思いました。それがきっかけで、剣道を習いはじめたのです。

熟語例

- ▽殿堂(大きくて立派な建物のこと。「こんど建てる多目的ホールは、文化の殿堂だ」などというふうにな、つかいます。)
- ▽公会堂(公衆のために建てた建物)
- ▽本堂(お寺の中心となる建物。仏像を安置してある所)
- ▽講堂(講義や講演などをする建物)
- ▽正々堂々(正しくてりつばな様子)